

基礎医学研究への招待

科目責任者 矢澤 卓也
学年・学期 1 学年・1 学期

I. 前 文

本学医学部の教育理念の根幹は「信頼される医師」を輩出することである。一方、今日の医療では患者さんが十分に満足する結果を得られない状況も多々ある。この問題を解決するためには、既存の教科書や診療マニュアルに目を向けるだけでなく、新たな情報を収集し、時には自ら調査や実験を行うことも必要である。また、大学院生や研究医として、難病の原因を解明したり、診断法を改良したり、新たな治療法を開発したりする研究に直接従事できる可能性もある。すなわち、「信頼される医師」を目指す上で、リサーチ・マインド（研究する心）を身に付けることは必須であり、それは本学のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）でも求められている。

この科目は、皆さんが医学の道を歩み始めるにあたり、医学研究を身近に感じられることを目的として、本学の基礎医学講座で日々行われている研究に関するショートレクチャーを行うものである。「医学研究室配属」の履修や配属先を考える上でも参考にして欲しい。

II. 担当教員

基礎医学各講座の教員

III. 一般学習目標

1. 医学研究（特に基礎医学研究）の意義を認識する。
2. 医学研究の対象や方法論の概略を理解する。
3. 基礎医学の各講座で行われている研究の概略を理解する。
4. 基礎医学研究者の価値観や人生観に触れる。

IV. 学修の到達目標

1. 自分が医学のどのような事象や分野に興味があるかを考えてみる。
2. リサーチ・マインドを身に付け、それを伸ばしていくには、学生時代に何をすればいいのかを考え、実践する。

V. 授業計画及び方法

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者
1	4	15	水	5	基礎医学研究への招待	病 理 学 矢 澤 卓 也
2		24	金	1	創薬のはじめの一步 — 疾患モデルの作成をする — (20分)	薬 理 学 藤 田 朋 恵
					微生物学研究への招待 (40分)	微 生 物 学 増 田 道 明 石 川 知 弘 布 矢 純 一
3		28	火	3	脳情報の解析と利用 (20分)	生理学 (生体情報) 神 作 憲 司
					マウスの脳イメージングと脊髄パッチクランプ実験 (20分)	生理学 (生体情報) 福 島 央 之
					職業としての大学所属基礎研究者の利点とは? (20分)	薬 理 学 相 澤 直 樹

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者
4	5	19	火	1	生体防御システムの形態的学解析 — in vivo immunology — (20分)	解剖学 (マクロ) 上 田 祐 司
					医学と生化学 (20分)	生 化 学 杉 本 博 之
					熱帯病の研究 ~ ラボとフィールドの連携 ~ (20分)	熱帯病寄生虫病学 川 合 寛
5		21	木	1	予防医学入門 (20分)	公衆衛生学 小 橋 元
					行政との連携によるコホート研究 (20分)	公衆衛生学 西連地 利己
					社会医学 (衛生・公衆衛生学) への招待 (20分)	先端医科学総合施設 研究連携・支援センター 内 山 浩 志
6	6	1	月	5	全頭前野と創造性 (20分)	解剖学 (組織) 橘 篤 導
					ヒト脳活動の外的調節 (20分)	生理学 (生体情報) 小金丸 聡 子
					生体バリアの維持と破綻のメカニズム (20分)	生 化 学 伊 藤 雅 彦

VI. 評価基準 (成績評価の方法・基準)

各レクチャーの担当教員の出題による筆記試験を定期試験期間中に行い、レクチャー内容の理解度や科学的思考能力について判定する。

VII. 教科書・参考書・AV資料

教科書は特に指定しない。

各講義の際に、レジユメの配布や、参考図書・参考文献の紹介を行うことがある。

VIII. 質問への対応方法

各講義担当者が随時受け付ける。

質問や見学希望のある学生は、それぞれの講義担当者の所属講座を積極的に訪ねて欲しい。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	◎
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	◎
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	◎
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	◎
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

不明点や興味を持った研究内容について，講義後に各講義担当者に直接質問する。

XI. 求められる事前学習，事後学習

講義該当部分について復習する（30分）。

XII. コアカリ記号・番号

A-8-1)